

跡では原石や未成品の比率が高いのは、原石産地からの距離が反映していると考えられる。

製作工程に関しては、先に馬場山D遺跡の報告の中でまとめたように、素材の準備→剥離・敲打による整形→研磨による整形→完成となり、基本的な流れは時期を越えて共通する。原石から完成品に至る各々の長幅指数の平均値も馬場山D遺跡と境A遺跡でほとんど差がなく、製作工程の主目的が、原石の丸みのある側縁を直線的に整形し、細長い形状に仕上げることにあったことが理解できる。また平坦面も含めて、敲打整形を多用するものは、境A遺跡や早月上野遺跡にやや多く、製作技法の時代的な差としてとらえることができるかもしれない。

本報告では、未成品資料等を一括して扱ったが、量的にはそれほど多くないにしろ、住居跡出土の資料もあるので、今後は時期区分をふまえた製作技術の変遷について、明らかにしていく必要がある。

3. 北陸における磨製石斧—石器組成と大きさを中心として—

A. はじめに

縄文時代の木工具としては、様々な石器が用いられた。山田昌久氏は、縄文時代の木製品の加工法に関連づけて、石斧・くさび形石器・削器・ドリル（石錐）・軽石・砥石・尖頭状石器などが木工具として用いられたと推定している〔山田1983〕。その中でも最も代表的な木工具は、本遺跡でも大量に製作された磨製石斧である。

磨製石斧は、樹木の伐採から木材の加工に至るまで、様々な段階で用いられており、量の多少はあっても時代と地域をとわず、縄文人にとって必需品であった。彼らが生活していくうえで、非常に重要な、時には必須条件でもあった森林環境から、建築材をはじめ、様々な生産・生活用具を作り出し、積極的に「木」の利用を図った背景には、道具としての磨製石斧の製作と使用が密接に関連している。

近年このような磨製石斧のもつ意義の再評価が活発に行なわれ〔佐原1977・1982、早川1983など〕、さらには地域ごとの変遷過程の追求も試みられている〔宮内1987・大森1989など〕。ここでは境A遺跡を含む蛇紋岩製磨製石斧製作地帯で製作された磨製石斧が、北陸地域（新潟・富山・石川・福井の各県）にどのような広がりを持っているのか、縄文時代草創期～前期の状況も参考にしながら、主として石器組成と大きさの面から探ってみたい。

B. 石器組成における磨製石斧

いうまでもなく、遺構単位あるいは遺跡単位でまとめることのできる出土石器の種類と量的比率、すなわち石器組成は、それぞれの単位ごとで行なわれた諸生産活動の特徴を、かなりの程度で示してくれる。これを前提に、磨製石斧を用いて行なう作業頻度をはかるため、石器組成中の磨製石斧の占有率について、その時代的な変化と地域差がどのようなものであったのか分析してみたい。

第9表は北陸4県の代表的な遺跡について、調査報告書の記載をもとに、遺跡単位で石器の種類と数量を示したものである。石器として集計したのは直接・間接の生産用具と考えられる石鏃・石槍・石匙・打製石斧・礫器・石皿・擦石・凹石・敲石・石錐・石錘・その他（楔形石器・削器・石篋など）に限定し、いわゆる「第二の道具」に属する石棒石剣類・石冠・御物石器・装飾品などや、石核・剥片類は除いてある。また砥石類についても、磨製石斧生産に伴って大量出土する遺跡〔小野他1988〕があり、磨製石斧の在り方を示すにはむしろ障害になると考え、これも除いた。さらに石器製作遺跡における製作途中の未成品についても極力省いた。

それぞれの石器組成の所属時期については、時期区分を細かくすればするほど、使えるデーターが少なくなるため、草創期～早期・前期・中期・後期・晩期の5大区分とした。それでも地域と時期により、データーの不十分な部分がある。遺跡単位で比較しても本来的な理由により、また出土石器総数の少なさや報告の不備等の、様々な要因によりかなりのばらつきがみられる。そこで遺跡単位のデーターを地域と時期ごとにまとめてみた（第10表）。次にこの表をもとに磨製石斧占有率の時代的な変化と地域差を見てゆくことにする。

縄文時代草創期～早期に関しては、データが少なく比較が困難である。新潟県岩野E遺跡で比較的高率を示すが、この遺跡では早期後葉から前期にかけての土器が伴っており、必ずしも早期に限定することができない。草創期のものとしては新潟県小瀬ヶ沢洞窟出土の石斧が知られているが〔中村1960〕、一部を除き、全面研磨の磨製石斧には程となく、局部磨製石斧ともいべきものであり、ここでは省いた。草創期～早期段階では石器組成に占める割合も小さく、福井県鳥浜貝塚での2%という数字が一般的な在り方を示唆しているように思われる。全面研磨の磨製石斧が、石器組成のなかで一定量を占め、重要な要素として安定的な地位を確保するのは、早期末葉～前期初頭の段階である。該期の富山県南太閤山I遺跡・極楽寺遺跡や石川県甲小寺遺跡などをはじめ前述の新潟県岩野E遺跡でもみられるように、6～43%とかなりの遺跡間較差を有しながらも、確実に増加している。

前期段階の占有率は、新潟・石川県で5%台、福井県（鳥浜貝塚）でやや低く1.3%であるのに対して、富山県では23.2%と非常に高い割合を示す。磨製石斧の占有率にかなりの地域間較差を生じているが、前期における富山県内の高率現象は全国的にみてもかなり特異なあり方であるといえよう。

中期段階では富山県で前期以来相変わらず20%を越す高率となっており、新潟県でも10%を超えて増加する。石川・福井両県でも漸増傾向があるが、富山・新潟両県に比べかなり低い。後期～晩期においてもこの傾向は持続し、北陸東部地域（新潟・富山両県）で10～20%台を占めるのに対して、北陸西部地域（石川・福井両県）では石川県の中～後期の複合遺跡でやや高率を示す他は、2～7%と低い。

次に地域ごと（県別）に占有率をみえる。新潟県では前期がやや低いものの、中期以降は10%を超える場合が多く、比較的占有率が高いといえよう。富山県では前期以来5%を超える高い割合を示めしており、この地域の際だった特徴となっている。石川県では、中～後期の複合遺跡で20%を超える高率を示して特異なあり方を示しているが、前期以来3～6%前後の占有率が一般的なあり方のようなようである。福井県では資料数がやや少なく評価にやや不安が残るものの石川県によく似た傾向を示すと考えて大過ないであろう。

このように北陸地域の磨製石斧の占有率については、東部地域（新潟・富山）と西部地域で明瞭な地域差が認められ、この傾向は前期以降晩期に至るまで、継続的なものであることが理解できる。このことは、富山県東部から新潟県西部に分布する蛇紋岩製磨製石斧の大量生産遺跡の存在と密接に関連しており、生産地を離れるに従って稀少になる傾向を示している。

磨製石斧生産地域やその周辺では、おそらく潤沢に磨製石斧を入手し、使用することが可能であった。優秀な木工具を十分な量保有しえた情勢を背景に、この地域ではいきおい、木を盛んに利用し、木工技術の面においても先進的な役割を果たしていた可能性がある。

C. 磨製石斧の大きさ

磨製石斧には様々な大きさのものがある。機能と用途に応じて意図的に大きさをかえて製作されたものである。それぞれの大きさの磨製石斧がどのような用いられ方をしたのか、この重要な問題点に踏み入る前に縄文時代の磨製石斧は大きさによってどのように分類できるのか、これまでの報告例を参考に少し検討を加えてみる。

石川県東市瀬遺跡(中期)の磨製石斧を報告した中村英洋氏はI類(全長36～42mm×全幅12～19mm)、II類(54～94mm×23～46mm)、III類(102～143mm×45～74mm)、IV類(170～181mm×72～78mm)の4類に区分している〔中村1985〕。また石川県御経塚遺跡(後～晩期)の磨製石斧を報告した山本直人氏はI類(90～130mm×50～70mm)、II類(65～85mm×35mm前後)、III類(50mm前後×25～40mm)、IV類(35～50mm×15～20mm)の4類に区分している〔山本1983〕。筆者は先に富山県朝日町馬場山遺跡群(中期)出土の磨製石斧について、法量から1類(125～148mm×51～60mm)、2類(83～106mm×34～53mm)、3類(48～69mm×21～34mm)、4類(34～44mm×14～16mm)の4類に区分した〔山本1987〕。また新潟県青海町寺地遺跡の磨製石斧を分類した阿部朝衛氏は長さ8cm、厚さ1.5cmを目

安に大型と小型に区分している〔阿部1987〕。これ以外にも地域と時代によって、様々な数値で分類されているようであるが、大体4類程度に区分する場合が多いようである（第53図）。

法量による分類をする場合、完形品やこれに準ずる資料が、十分な量得られることが必要不可欠であるが、遺跡―特に消費遺跡―から発掘される磨製石斧はほとんどが欠損品であるため、この条件を満たす一括資料は、なかなか得難いのが実情である。

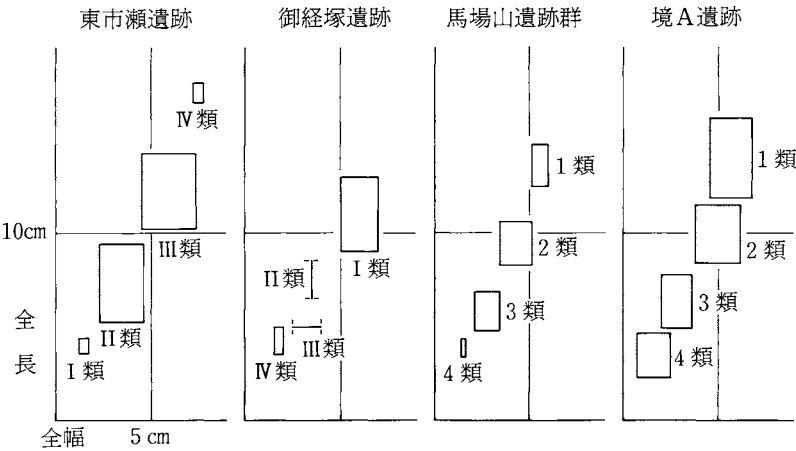
幸い境A遺跡から、時期的には中期から晩期まで混在するが、150点余りの完形品ないし完形品に近い磨製石斧が出土しており、法量分類の参考としうる。これを長幅分布図に表して集中域を囲むと、ほぼ4類に区分することが可能なことは先述したとおりである。特に2類と3類の間には、全長8cm、全幅3.5cm、重量75gを境に大きな断絶があり、この傾向は寺地遺跡や馬場山D遺跡などでも認められる。そこで、これを目安に大型（1・2類）と小型（3・4類）に区分しておく。大型と小型の法量差は、磨製石斧の機能差をある程度示していると考えられる。具体的な機能や用途については、さらに様々な研究視点からの検討によって解明していかなければならないが、大まかには、前者は樹木の伐採と大型材の加工、後者は細部加工を含む様々な木材加工に用いられたものと推定しておきたい。^{註①}

次に上述のように分類した大型磨製石斧と小型磨製石斧の出土比率を、県別に、さらに時期別にみると第10表のようになる。福井県では良好な資料が得られなかったので評価をばくとして、新潟・富山・石川の三県では比較的似た傾向を示す。前期では大型の占める割合が6～7割であるのに、中期～後期では大型が7～9割と増加し、後期～晩期になると大型が5～7割と、再び減少する。すなわち、大型磨製石斧の使用頻度は、中期から後期にかけてピークを示すのである。北陸の中期は遺跡数と竪穴住居数が飛躍的に増加する時期であり、これに伴う建築材の伐採用として、大型磨製石斧の需要が多かったのではないかと考えられる。

D. 小結

北陸地域の磨製石斧について、主として消費遺跡での組成の在り方と、大きさの変化を通して概観してみた。その結果、北陸地域の中でも新潟県西部や富山県東部では、磨製石斧がかなりの高率で組成されていることが確認され、この地域では磨製石斧を潤沢に使用することが可能であったことを指摘しておいた。この背景には豊富な原料をもとにした、境A遺跡をはじめとする蛇紋岩製磨製石斧の大量生産遺跡の存在があることは明らかである。さらに、単に磨製石斧が多いというだけでなく、それを用いての生産活動の面においても地域差を生じさせていたであろうことは、容易に推察される。

また、富山県内の遺跡では、すでに前期段階において、石器組成の中に含まれる磨製石斧の量が多いことも指摘できる。このことは、中期前葉に本格化する蛇紋岩製磨製石斧の大量生産に至る伏線として、見過ごすことのできない点である。現段階ではいまひとつ不明瞭な前期における磨製石斧の製作と流通についても、今後詳細な検討を重ねていく必要がある。



第53図 磨製石斧の大きさによる分類

県名	遺跡名	時期	総数	磨斧率	大型率	小型率	小計			
新潟	糸魚川市岩野E	1・2	68	17	25%	10	7	17		
新潟	草創～前期平均		68	17	25%	10	59%	7	41%	17
新潟	十日町北原八幡	2	20		0%					0
新潟	巻町布目	2	30	2	7%	1	0			1
新潟	巻町新谷	2	1057	31	3%	26	5			31
新潟	青海町大角地	2	278	28	10%	9				13
新潟	湯沢町大岩原	2	70		0%					0
新潟	刈羽村刈羽貝塚	2	27	14	52%					0
新潟	新潟市前	2	33	3	9%	1	2			3
新潟	前期平均		1515	78	5%	37	77%	11	23%	48
新潟	巻町豊原	2・3	224	8	4%	8	0			8
新潟	前期～中期平均		224	8	4%	8	0			8
新潟	柏崎巖野	3	35	7	20%					0
新潟	柏崎巖野	3	18	2	11%					0
新潟	津南町上野	3	42	7	17%	5	2			7
新潟	湯沢市上野	3	109	12	11%					0
新潟	湯沢市上野	3	101	25	25%	16	9			25
新潟	湯沢市上野	3	150	15	10%					0
新潟	湯沢市上野	3	461	55	12%	4	3			7
新潟	湯沢市上野	3	29	3	10%	1	2			3
新潟	湯沢市上野	3	211	13	6%					0
新潟	湯沢市上野	3	136	24	18%	6	3			9
新潟	湯沢市上野	3	108	5	5%	3	0			3
新潟	湯沢市上野	3	37	8	22%	8	0			8
新潟	湯沢市上野	3	106	2	2%					0
新潟	中期平均		1543	178	12%	43	69%	19	31%	62
新潟	吉川町長峰	3・4	94	30	32%	22	6			28
新潟	妙高町長峰	3・4	84	13	15%	6	7			13
新潟	妙高町長峰	3・4	246	34	14%	5	3			8
新潟	湯沢市上野	3・4	98	1	1%					0
新潟	湯沢市上野	3・4	52	30	58%					0
新潟	中～後期平均		574	108	19%	33	67%	16	33%	49
新潟	下田村芹沢	4	213	10	5%					0
新潟	下田村芹沢	4	103	3	3%	1	2			3
新潟	下田村芹沢	4	182	22	12%					0
新潟	下田村芹沢	4	79	6	8%					0
新潟	下田村芹沢	4	454	15	3%	14	1			15
新潟	後期平均		1031	56	5%	15	83%	3	17%	18
新潟	妙高町生	4・5	38	11	29%	8	3			11
新潟	妙高町生	4・5	244	34	14%					0
新潟	妙高町生	4・5	191	17	9%	5	12			17
新潟	妙高町生	4・5	93	14	15%	5	8			13
新潟	妙高町生	4・5	123	10	8%					0
新潟	後～晩期平均		689	86	12%	18	44%	23	56%	41
新潟	朝日村駒山	5	65	26	40%	23	3			26
新潟	朝日村駒山	5	41	22	54%	5	8			13
新潟	朝日村駒山	5	19	0	0%					0
新潟	朝日村駒山	5	67	11	16%					0
新潟	朝日村駒山	5	64	11	17%	6	5			11
新潟	朝日村駒山	5	371	58	16%	31	27			58
新潟	朝日村駒山	5	195	17	9%					0
新潟	晩期平均		822	145	18%	65	60%	43	40%	108

第9表 石器組成における磨製石斧の占有率（その1）

県名	遺跡名	時期	総数	磨斧率	大型率	小型率	小計			
富山	福光町神明原A	1	9	1	11%		0			
富山	草創・早期平均		9	1	11%	0	0			
富山	小杉町南太閤山	2	124	17	14%	10	7	17		
富山	小杉町南太閤山	2	51	22	43%	6	13	19		
富山	小杉町南太閤山	2	26	11	42%	10	1	11		
富山	小杉町南太閤山	2	56	4	7%	1	1	2		
富山	小杉町南太閤山	2	13	3	23%	3	0	3		
富山	小杉町南太閤山	2	139	32	23%	24	2	26		
富山	小杉町南太閤山	2	40	15	38%	3	11	14		
富山	前期平均		449	104	23%	57	62%	35	38%	92
富山	朝日町馬場山群	3	735	131	18%	40	14	54		
富山	朝日町馬場山群	3	29	8	28%	5	3	8		
富山	朝日町馬場山群	3	109	12	11%	4	3	7		
富山	朝日町馬場山群	3	13	4	31%	3	1	4		
富山	朝日町馬場山群	3	122	26	21%	7	2	9		
富山	朝日町馬場山群	3	26	6	23%	6	0	6		
富山	朝日町馬場山群	3	31	8	26%			0		
富山	朝日町馬場山群	3	81	22	27%	20	2	22		
富山	朝日町馬場山群	3	107	35	33%	8	3	11		
富山	朝日町馬場山群	3	77	30	39%			0		
富山	朝日町馬場山群	3	15	7	47%	7	0	7		
富山	朝日町馬場山群	3	50	12	24%	7	3	10		
富山	朝日町馬場山群	3	104	21	20%	16	3	19		
富山	朝日町馬場山群	3	242	49	20%	41	8	49		
富山	中期平均		1741	371	21%	164	80%	42	20%	206
富山	高岡市小竹敷	3・4	39	7	18%	7	0	7		
富山	高岡市小竹敷	3・4	46	7	15%	5	2	7		
富山	中～後期平均		85	14	16%	12	86%	2	14%	14
富山	魚津市石垣	3・5	520	137	26%			0		
富山	魚津市石垣	3・5	246	118	48%	10	6	16		
富山	中～晩期平均		766	255	33%	10	63%	6	38%	16
富山	福野町五百歩	4	157	35	22%	29	6	35		
富山	後期平均		157	35	22%	29	83%	6	17%	35
富山	滑川市本江	4・5	227	55	24%	29	13	42		
富山	滑川市本江	4・5	160	12	8%	4	3	7		
富山	滑川市本江	4・5	151	19	13%	5	0	5		
富山	後～晩期平均		538	86	16%	38	70%	16	30%	54
富山	高岡市高田新	5	6		0%			0		
富山	高岡市高田新	5	6	2	33%	1	1	2		
富山	晩期平均		12	2	17%	1	50%	1	50%	2
石川	穴水町甲小寺	2	838	50	6%	23	6	29		
石川	能都町真脇	2	277	4	1%			0		
石川	七尾市千手	2	217	28	13%	17	11	28		
石川	高米町へラソ	2	552	23	4%	11	3	14		
石川	押水町向山	2	43	3	7%	2	0	2		
石川	輪島市三井新保	2	49	8	16%	6	2	8		
石川	前期平均		1976	116	6%	59	73%	22	27%	81
石川	能都町真脇	2・3	762	5	1%			0		
石川	前～中期平均		762	5	1%	0	0	0		

石器組成における磨製石斧の占有率（その2）

石川	鹿島町徳前 C	3	34	1	3%	1				1
石川	能都町真脇	3	448	29	6%					0
石川	金沢市笠舞 I	3	2580	111	4%	102		9		111
石川	金沢市笠舞 V	3	117	5	4%	4		1		5
石川	金沢市北塚	3	244	17	7%	12		1		13
石川	小松市念仏林	3	429	14	3%	11		0		11
石川	富来町ムカイハラ	3	140	7	5%	2		2		4
石川	七尾市奥原	3	24	7	29%	6		1		7
石川	辰口町助生	3	2349	45	2%	32		2		34
石川	白峰村桑島東島	3	61		0%					0
石川	中期平均		6426	236	4%	170	91%	16	9%	186
石川	宇ノ気町上山田	3・4	106	37	35%	20		5		25
石川	七尾市赤浦	3・4	362	83	23%	75		8		83
石川	尾口村尾添	3・4	44	2	5%	2		0		2
石川	穴水町曾福	3・4	246	46	19%	24		2		26
石川	中～後期平均		758	168	22%	121	89%	15	11%	136
石川	能都町波並西の	3～5	130	28	22%	27		1		28
石川	中～後期平均		130	28	22%	27	96%	1	4%	28
石川	加賀市横北	4・5	344	15	4%	9		3		12
石川	鶴来町白山	4・5	430	8	2%	4		4		8
石川	押水町上田	ウマハチ 4・5	130	41	32%	25		6		31
石川	門前町道下元町	4・5	167	88	53%	29		0		29
石川	河内村福岡	4・5	504	15	3%	5		3		8
石川	能都町真脇	4・5	784	132	17%					0
石川	金沢市チカモリ	4・5	1728	61	4%	44		17		61
石川	野々市町御経塚	4・5	6267	273	4%	15		21		36
石川	尾口村御所の館	4・5	50	2	4%	0		2		2
石川	後～晩期平均		10404	635	6%	131	70%	56	30%	187
石川	金沢市中屋	5	21	1	5%	0		1		1
石川	辰口町岩内	5	143	3	2%	2		1		3
石川	松任市長竹	5	52	4	8%	2		1		3
石川	鳥越村下野	5	27		0%					0
石川	晩期平均		243	8	3%	4	57%	3	43%	7
県名	遺跡名	時期	総数	磨斧率	大型率	小型率	小計			
福井	鳥浜貝塚	1	255	5	2%					0
福井	草創・早期平均		255	5	2%	0				0
福井	鳥浜貝塚	2	5657	76	1%	15		2		17
福井	前期平均		5657	76	1%	15	88%	2	12%	17
福井	右近次郎	2～4	719	22	3%	17		5		22
福井	前～後期平均		719	22	3%	17	77%	5	23%	22
福井	勝山市古宮	3	145	8	6%	5		3		8
福井	南条市上平吹	3	103	2	2%	2		0		2
福井	中期平均		248	10	4%	7	70%	3	30%	10
福井	和泉村後野	3・4	69	5	7%					0
福井	中～後期平均		69	5	7%	0				0
福井	勝山市鹿谷本郷	4・5	263	6	2%	4		2		6
福井	後～晩期平均		263	6	2%	4	67%	2	33%	6

石器組成における磨製石斧の占有率（その3）

磨製石斧占有率の時期別変化 新潟県

時期	総数	磨斧	磨斧率	他石器率	大型	小型	大型率	小型率
草創・早期	68	17	25.0%	75.0%	10	7	58.8%	41.2%
前期	1515	78	5.1%	94.9%	37	11	77.1%	22.9%
前～中期	224	8	3.6%	96.4%	8	0	100.0%	0.0%
中期	1543	178	11.5%	88.5%	43	19	69.4%	30.6%
中～後期	574	108	18.8%	81.2%	33	16	67.3%	32.7%
後期	1031	56	5.4%	94.6%	15	3	83.3%	16.7%
後～晩期	689	86	12.5%	87.5%	18	23	43.9%	56.1%
晩期	822	145	17.6%	82.4%	65	43	60.2%	39.8%

磨製石斧占有率の時期別変化 富山県

時期	総数	磨斧	磨斧率	他石器率	大型	小型	大型率	小型率
草創・早期	9	1	11.1%	88.9%				
前期	449	104	23.2%	76.8%	57	35	62.0%	38.0%
前～中期	1741	371	21.3%	78.7%	164	42	79.6%	20.4%
中期	85	14	16.5%	83.5%	12	2	85.7%	14.3%
中～後期	157	35	22.3%	77.7%	29	6	82.9%	17.1%
後期	538	86	16.0%	84.0%	38	16	70.4%	29.6%
後～晩期	12	2	16.7%	83.3%	1	1	50.0%	50.0%
晩期								

磨製石斧占有率の時期別変化 石川県

時期	総数	磨斧	磨斧率	他石器率	大型	小型	大型率	小型率
草創・早期	1976	116	5.9%	94.1%	59	22	72.8%	27.2%
前期	762	5	0.7%	99.3%				
前～中期	6426	236	3.7%	96.3%	170	16	91.4%	8.6%
中期	758	168	22.2%	77.8%	121	15	89.0%	11.0%
中～後期								
後期	10404	635	6.1%	93.9%	131	56	70.1%	29.9%
後～晩期	243	8	3.3%	96.7%	4	3	57.1%	42.9%
晩期								

磨製石斧占有率の時期別変化 福井県

時期	総数	磨斧	磨斧率	他石器率	大型	小型	大型率	小型率
草創・早期	255	5	2.0%	98.0%				
前期	5657	76	1.3%	98.7%	15	2	88.2%	11.8%
前～中期								
中期	248	10	4.0%	96.0%	7	3	70.0%	30.0%
中～後期	69	5	7.2%	92.8%				
後期								
後～晩期	263	6	2.3%	97.7%	4	2	66.7%	33.3%
晩期								

第10表 磨製石斧占有率の時期別変化